

年間指導計画・評価計画案

「年間指導計画・評価計画案」について

年間指導計画作成の参考として、学年ごとの「年間指導計画・評価計画案」を用意した。この「年間指導計画・評価計画案」では、教科書の単元配列・教材配列にそって、単元・教材ごとに標準的指導展開案を提示し、さらにそれぞれの学習内容と「ここが大事」、学習用語、学習活動、留意点、評価規準、学習指導要領との対応などを示した。それぞれの項目の基本的な考え方について、簡単に説明する。

1 時数

「学習指導要領」の「第四章 指導計画の作成と内容の取扱い」では「A 話すこと・聞くこと」と「B 書くこと」に関して、配当時間を示している。また、「B 書くこと」では「実際に文章を書く活動なるべく多くすること」としている。このような「学習指導要領」の方向に対応させて、標準時数の中には、「A 話すこと・聞くこと」と「B 書くこと」の指導時数を取り立てて、かつ書きで明確に示した。いうまでもなく、ここに示した配当時間は標準時数であり、それぞれの地域や学校の児童の実態に合わせて、柔軟に取り扱っていただきたい。

なお、この「年間指導計画・評価計画案」では、書写の学習にあたる時数を年間で三十五（一年生は三十四）時間として、標準時数から引いた時間を配当している。

2 単元名・教材名・教科書ページ、学習内容、

ここが大事・学習用語

2-1 単元名・教材名・教科書ページ

国語教科書『ひろがる言葉』は、単元番号を付した比較的大きな「単元」と、その間に挟み込まれた「小教材」とが組み合わされて

構成されている。指導計画案に示す際には、ひとまとまりの学習単位である単元・小教材を、実線(――)でくぎった。

「教科書ページ」では、当該単元・教材が教科書のどのページにあるのかを示した。

2-2 学習内容

それぞれの単元や教材の学習内容を示した。この項目で使用されている記号は、以下のとおりである。

△言葉の特徴や使い方に関する事項、我が国の言語文化に関する事項

◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと

2-3 ここが大事・学習用語

教科書『ひろがる言葉』の「ここが大事」欄には、どのような学習のポイントをおさえれば、その単元の重要な学力を身につけることができるかを、児童に向けてわかりやすい表現でまとめてある。さまざまなレベルで記述されているが、学習における「方法知」に関する情報を記したものだといえよう。

また、『ひろがる言葉』では、付録のページに「学ぶときに使う言葉」として学習用語を整理してある(二年生以上)。それぞれの巻で学んだ学習用語として意識づけたい。この欄と連動させて使っているだけで幸いである。

3 学習活動／*留意点

当該単元・教材を学習する際の、主な学習活動を示した。この項目を見れば、単元、あるいは教材全体のおおよその学習活動の流れがわかるようになってくる。また、「読むこと」の学習の場合は、単元の学習活動の展開は、それぞれの単元のとにつけられた「学習のてびき」

の順序に従っている。そこで児童には、「学習のてびき」の学習の流れを意識させることで、単元展開の見通しをもたせることができる。

また、ここには当該の単元・教材の学習指導にあたって、重要だと考えられる「留意点」のみをいくつか掲げている。実際には、それぞれの地域における教室の児童の実態に応じて、さまざまな指導上の工夫がなされると思われる。

4 評価規準／学習指導要領との対応

それぞれの単元・教材の「評価規準／学習指導要領との対応」欄は、「おおむね満足できると判断される状況」を示している。国語科の評価の観点は、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」である。その教材で重点的に取り上げる指導事項に対応した評価項目については◎を付した。

なお、平成二十九年の学習指導要領改訂をうけた中央教育審議会での評価の観点の整理を踏まえて国立教育政策研究所教育課程研究センターから、評価規準の作成のための参考資料が発表されている。

各学校における評価規準作成の参考となるように、本「年間指導計画・評価計画案」ではその国立教育政策研究所の作成した参考資料に準拠して、評価規準を設定している。